

筑後川下流右岸農地防災事業 徳永線(早津江工区)水路改修工事

佐賀県南部から東部に広がる佐賀平野は、九州最大の河川である筑後川の下流右岸地域に位置する広大な水田地帯であり、有明海の干潟の発達や干拓によって形成された平坦な低平地が特徴です。本地域では、昭和51年度工事着手した国営筑後川下流土地改良事業により整備されたクリークが農業用水を供給するとともに、貯水・排水機能を持ち、洪水調整にも役立っています。しかし近年、クリーク法面の崩壊が進み、機能低下による災害発生が懸念されているため、改修工事が進められています。



本工事内容は佐賀市南部の徳永線早津江工区におけるクリーク改修工事で、施工延長約580m、ブロックマット約6,000m²を施工するものでした。環境への配慮から、セメント系地盤改良工やコンクリート工事には工程制限（令和7年4月1日～令和7年8月31日）が設けられました。

梅雨時期の降雨による地盤改良作業の中止や一時的な越水もあり、工程の遅延が予想されましたが、関係者の協力と努力により工程制限内の8月7日に右岸水路を無事に完成することが出来ました。猛暑対策として福利厚生を充実させ、熱中症の発生を防ぐとともに作業環境の改善に努めました。

現在、工事完了に向け、無事故・無災害での完成を目指し、安全第一で取り組んでいます。発注者である九州農政局及び筑後川下流右岸農地防災事業所岩下所長をはじめ、監督職員の方々、またその他の工事に携わった方々に厚く御礼申し上げます。

監督職員からのエール

本工事は、佐賀市南部に位置し、法面崩壊が進行しているクリークの法面保護工及び堆砂土砂の撤去を行うことにより、クリークの排水及び貯水機能を回復し、法面崩壊に起因する広域的な災害を未然に防止することを目的とした工事です。

現場は、有明海に近いことから、クリークの工事については、工程制限を設けるなど周辺環境へ配慮した条件のもとで工事を進める必要がありました。また、梅雨や台風に備えてクリークの片側を供用する必要があるため、半川締切工による施工であり、ドライな作業空間での施工計画及び工程管理、安全な作業環境の確保が求められるなか、鋼矢板による確実な止水や豪雨による越水等の対応に苦慮されました。

このような現場条件の中、現場代理人の松崎所長には、現場で発生する様々な課題に対し、迅速かつ適切に対応して頂いており、クリークを管理している関係市町、土地改良区と良好な関係を構築し、円滑に工事が進められていることに大変感謝しております。

工事期間中は、関係者との連帯を取りながら安全第一に取り組まれ、引き続き無事故・無災害で工事完成を迎えられるよう、よろしくお願いします。

現場代理人

(写真右) 若築建設株式会社

早津江作業所長 松崎 政利

監督職員

(写真左) 九州農政局 筑後川下流右岸農地防災事業所

技術専門官 吉村 敏康



(注：令和7年11月受稿。本工事は令和7年11月に完成しました。)